

— 錦織 佳代子 —

☀️ 熱中症警戒アラート ☀️

暑い暑い8月、東北、北海道も40℃近い気温。毎日のように警報がー出る。庭のセミはますます元気に大合唱!

水分補給  わかやの一杯、冷たい手作りレモン酒

1964年 昭和39年 東京オリンピック開催 新幹線東京-大阪開通
私は四国ガスに入社、定年まで勤めた。

1966年 昭和41年 カールスカウト世界会議 於：国立代々木競技場

リーグの私(会社の社会貢献の一つ)はスカウト2名と出席。常陸宮妃葉子さまに間近でお目にかかった。  オウキウと曇り空、朝日はあたたかそうなおうか... 気品のあるおやさしい笑顔が

 選手村に宿泊 生まれてはじめて シアールームを使った
代々木競技場 忘れられない。設計は合治出身の丹下健三氏 小学校の級友のおじさま 彼女のうちにアメリカのおもちゃがあった。

トマトのごまみそあえ  ごはんにあう、よく作る。GORIさんにも好評

(2人) トマト大玉 1コ

オリゴマ(白) 大さじ1
みそ 小さじ2
砂糖、みりん各小さじ1
塩 少々
青じそ 2枚

今年はじめで作った大玉のトマト、おいしい。10マスにも。

- ・トマトは食べやすいし形に切る。
- ・青じそ1cmくらいにちぎる。
- ・Aをよくまぜトマトをあえて、しそを散らす

◎ 私は玉ねぎ、さつゆでたオクラ、10701カなども入れる、トーフにのせてもいい。

1921年 7月、8月 「2020東京オリンピック開催」 続いて10オリンピックも

コロナ禍の日本に世界中からアスリートが集まる。テレビはオリンピックばかり、私はほとんど見ないで、読書、家事。

みーちゃん 2x
こうちゃん 10x 

今治 32℃
ヘルシンキ 15℃

長袖シャツ 家族でランニングの履きかえしたところ

小学生の夏休み 2カ月
サマーマン 4週間

〈婦人友会月会座談会〉 タイトル
コロナ禍もしなやかフロンティアのシンボルライフ

「8時間以上は働かないという文化が徹底しているから、みんな仕事の外にライフがある。...」
(経済でなく文化なんですね)

オリンピックのあと全国でコロナ感染拡大。毎日のように「過去最多」と報じられる。医療逼迫、政府は何してる？ さらに各地で大雨による甚大な被害。今治も雨続き。

読書ノート

● 香月泰男 <私の地球> を描き続けた

別冊 太陽
山口県の日海側、長門市三隅の香月泰男美術館へGORIさんと三度訪れた。10年以上前？山口県立美術館、今治市玉川美術館など「香月展」のときのレポートにも参加した。この本には沢山の作品が載せられている。香月の生涯を辿りゆっくり作品を観る。苛酷なシベリア抑留、異郷にたふれた同胞への深い悲しみと鎮魂の思い。私はシベリアシリースの作品の前に立ったときの体のふるえが甦る。アウシュビッツの強制収容所の多くの人の顔が重なる。香月にとって、シベリアを追体験するのは地獄の苦しみ、それでも描かねばならなかった。戦争を憎む強い思い、平和への願い。一方、エラスな元道具作りや、台所、アトリエ、野田の花、虫、魚...。香月ならではのやさしさと生きとしるもの愛に満ちている。

● 記憶の光景・十人のヒロシマ 江成 常夫 新潮社

18歳の夏、私は友人と二人でヒロシマの平和記念館に行った。その後、手記や小説、詩集、写真集などいろいろ読み、ヒロシマを知らねば、と思った。著者が数年にわたって広島に通い、被爆者自身から聞いた惨状、「あの薄らぐ光、大空の天が一度にすり落ちたかと思いました...」。目の前の地獄絵、ごく普通の人が語る「あの日」の有り様が私の胸にしみ渡る。写真家江成は、写真と文章を合わせた「フォト・ノンフィクション」を生み出し、静かに深く事実を語りかける。

今年も暑い暑い八月が来た。ヒロシマ、ナガサキがサキ原爆の日。そして敗戦記念日。戦争、核兵器がどんなに恐ろしいものなのか、多くの体験者が本によって、私たちに伝えてくれる。一冊でも読もう。

セミの抜けから、アウシュビッツ、庭のあらし、葉のウラ、物干し竿、自転車にも。